

〈NFRJ の確立〉にむけて 3 —調査項目の継承と新たな試み—

島 直子・品田知美・田中慶子

はじめに

NFRJ08 調査票は、NFRJ08 実行委員会内に組織された調査票班を中心に、2006 年から 2 年間をかけて作成された。NFRJ98 ならびに NFRJ03 の項目を継承するとともに、詳細な検討をおおして項目の精練につとめた。また 2008 年 5 月にはプリテストを実施し、調査票のみならず実査上の工夫点を知る貴重な機会となった。本論では、まず調査票班の議論を踏まえて調査項目の枠組みを整理し、「NFRJ08 調査票原案」⁽¹⁾の概要を紹介する。ついでプリテスト実施の経緯や内容およびその結果を紹介するとともに、プリテストのかかえる方法論上の課題を提起する。さいごに NFRJ08 調査票上の工夫などを整理し、NFRJ 調査票の課題を明示する。

I. NFRJ08 調査項目の枠組み

1. 議論の経過

調査票班による第 1 回調査票検討会では、NFRJ98/03 項目の整理と担当領域の振り分けが行われた。また調査項目の継続や削除を判断する基準の一つとして、調査票班員である松田が検討した「NFRJ98/03 を使用した論文で用いられた質問項目の頻度」が参照された(松田, 2007)。そして第 2 回検討会において、「原則として NFRJ03 を踏襲するが、必要に応じて NFRJ98 項目の復活ならびに項目の修正・追加を検討する」という基本方針と、個別の検討課題が確認された。以下に、それ以降の検討会で展開された議論について整理

しま なおこ：放送大学/しなだ ともみ：立教大学（非常勤講師）/たなか けいこ：(財)家計経済研究所

するが、紙幅の都合上、最終的に「NFRJ08 調査票原案」に反映された主要なトピックに限定する。

2. 復活された NFRJ98 項目

NFRJ03 では削除された NFRJ98 項目のうち、再調査する意義が認められる項目について精査された結果、「家族認知」項目の復活と「経歴情報」の充実が目指されることとなった。

「家族認知」項目については、10 年の変化を把握することは有益であるとして復活された。なお、NFRJ98 では、個々の親族について「家族の一員」だと思いか否かとたずねる方式と、特定の続柄をあげて、その続柄に該当する人の数と、それらうち「家族の一員」だと思ふ人の数をたずね、そのズレをみるという二つの方式が用いられている。議論の結果、前者の方式については、NFRJ98 で測定された「配偶者/子/親/配偶者の親/きょうだい」のみならず、「子の配偶者/きょうだいの配偶者/初孫」の「家族認知」も有益な情報であるとして追加された。ただし、若年票の「子の配偶者/初孫」、高年票の「親/配偶者の親」については、該当者が存在(生存)する確率が低いとして設置されなかった。一方、後者の方式を用いて「家族認知」を測定することの妥当性については疑問も示された。しかし最終的には、「家族認知」は量的調査によって正確に把握することが困難であり、どのようなたずね方をしても曖昧さが残ることと、継続性を重視することから踏襲された。

また NFRJ03 では NFRJ98 に比較して回顧項目が抑制されているが、NFRJ08 では経歴情報を収集し、因果推論が可能となるデータを作成することが目指された。そこで第一に、若年票と壮年

票に「結婚による職歴変化」項目が復活された（「結婚にともなう仕事の変化」は壮年層以下に多くみられるであろうとして、高年票には設置されなかった）。ただし選択肢については、NFRJ98 のカテゴリーに論理エラーがみられることから修正が加えられ、さらに、「同じ職場で業務の形態や職種が変わった」というカテゴリーが追加された。第二に、若年票と壮年票に「離家（＝1年以上親元を離れて暮らしたこと）」項目が復活された。ただし「離家」の実態はその理由によって異なるとして、「離家理由」項目が新設された。第三に「結婚経歴」項目として、離死別者の「初婚時期」項目が復活された。またあわせて、離死別者の「結婚回数」項目が新設された。第四に広い意味での経歴項目として、死亡した子の基本属性（性別/出生年月）項目が復活された。

3. 削減・削除された NFRJ98/03 項目

NFRJ98/03 では、心理状態を測定する項目として「ディストレス」と「ストレイン」の設問が設置されている。しかし両者はほぼ同義で使用されており、ディストレス尺度によってストレス状態を推測することが可能であること、また後述するように「ストレイン」と多々重複する「ワーク・ファミリー・コンフリクト/ファミリー・ワーク・コンフリクト」の設問が充実されたことから、NFRJ03 の「ストレイン」項目が削減された。

本人と各親族との「トラブルの有無」項目については、質問が曖昧なため分析が困難であり、分析に用いられた頻度も少ないとして削除された。

4. 修正された NFRJ98/03 項目

本人と各親族の「居住距離/接触頻度」の測定方法について検討がなされた。その結果、第一に、「居住距離」項目の選択肢に修正が加えられた。NFRJ98/03 のカテゴリーには移動手段と移動時間が混在していることから、「最もよく使う交通手段」でかかる「時間」をたずねることとされた。また世代間援助の研究を行う際には、近居親子の場合「どの程度近居であるか」が把握される必要

があるとして、NFRJ98/03 との接合性を維持しつつ、近距離のカテゴリーが細分化された（NFRJ98/03 の「1 時間未満」が、「15 分未満」「15 分以上 30 分未満」「30 分以上 60 分未満」に細分化された）。第二に、「話らしい話」をした頻度によって、本人と各親族の「会話頻度」を測定することの妥当性について議論された。その結果、「話らしい話」の定義は回答者に任せてよいとの結論にいたり、継続性を重視する点からも NFRJ98/03 方式が踏襲された。ただし主要な親族については客観的な「接触頻度」も別途たずねることが提案され、若年票と壮年票に「親/配偶者の親」との「接触頻度（＝この 1 年間に会った頻度）」項目が新設された。

意識項目については、合成尺度の作成が可能となるデータの作成が目指された。第一に「家族意識」項目については、夫婦の性別役割分業規範/家族形態規範/老親扶養規範の 3 軸を設定し、それぞれについて質問群を配置することが提案された。議論の結果、夫婦の性別役割分業規範と老親扶養規範については NFRJ03 項目が踏襲された。また家族形態規範についても、多様な家族形態に対する許容度の時系列変化が検証されるような設問が新設された。第二に、NFRJ03 では 1 問ずつであった「ワーク・ファミリー・コンフリクト」と「ファミリー・ワーク・コンフリクト」の設問が、3 問ずつに増設された。ただし「仕事と家庭の両立」が困難であるのは主に壮年層以下であろうとして、高年票には設置されなかった。

また NFRJ03 では、「要介護の家族・親族」と「本人が主な介護者となっている家族・親族」が複数回答形式でたずねられているため、介護経験に関して明確な情報を得ることが難しい。そこで「配偶者/親/配偶者の親/きょうだい」それぞれについて、「主な介護者」をたずねる方式が採用された。選択肢については、中途半端に細かなカテゴリーを設定しても分析に耐えられないだろうとして、「本人/本人の配偶者/本人と本人の配偶者以外の親族/介護サービス（施設やヘルパーなど）」

という大まかなカテゴリーにとどめられた。なお、壮年層以下では配偶者やきょうだいが必要介護である人は少ないと予想されることから、若年票と壮年票には「配偶者/きょうだい」の「主な介護者」項目は設置されなかった。

世帯情報を把握する方法として NFRJ03 で導入された「世帯表」については、複雑であり使用頻度も低いこと、一時的別居者のデータにおいてそれらがより顕著であることが指摘された。そこで「世帯表」を採用するか否か、採用する場合の修正点などについて議論された。その結果、把握されるべき世帯情報は世帯構成 (=同居者) であるとの結論にいたり、別居者に関する項目は削除された。また同居者についても、「続柄」と「人数」のみを問う (つまり「性別/出生年」は削除) 表に簡素化された。

5. 新設された NFRJ08 項目

NFRJ は、本人と各親族との 2 者関係をたずねることを基本設計としている。そこで NFRJ98/03 では調査されていない親族関係 (たとえば、「本人」と「おじ・おば」や「配偶者のきょうだい」との関係など) のうち、調査に値する関係について精査された結果、「本人 (祖父母) と孫」関係の重要性が認識された。そこで壮年票と高年票に、「初孫」の「性別/年齢/息子方・娘方のいずれか/同居の有無/会話頻度/家族認知」項目が新設された (ただし NFRJ98 には、「初孫の年齢」項目が設置されている)。

また NFRJ08 では調査票が 3 分割されることから、新たに設定される壮年層を焦点とした項目の新設が検討された。その結果、若年票と壮年票において、「現在、配偶者がいない方」を対象に「同棲経験の有無/交際相手の有無」をたずねることとなった (NFRJ98/03 では、無配偶者は、比較的多く設置されている配偶者に関する設問をスキップすることとなる)。これとあわせて、NFRJ03 では若年票にのみ設置された無配偶者の「結婚希望」項目が、すべての調査票に設置された。

そして「子ども」の定義についても検討がなさ

れた。NFRJ98/03 では「子ども」の定義があいまいであるが、データ・クリーニングが容易になること (たとえば、養子・継子なら「親との年齢差が 10 歳しかない子」は存在しうる)、継続調査によって養子・継子の増減が検証可能になることから、「実子/それ以外 (養子・継子)」のいずれかとたずねる設問が新設された。なお、「亡くなられたお子さん」についても定義する必要性が指摘された (たとえば、流産・中絶・死産を「亡くなった子」とみなすか否か) が、定義づけは困難であるとして、回答者の判断に委ねることとされた。

【文 献】

松田茂樹, 2007, 「全国家族調査の質問項目の使用頻度」『家族社会学研究』19(2): 113-120.

【注】

- (1) 第 7 回 NFRJ08 実行委員会幹事会 (2008 年 8 月 20 日) に提出された、調査票班による最終案である。

(島直子)

II. NFRJ プリテストの実施

1. 実施計画の策定

社会調査法の教科書にあるように実査の前のプリテストは欠かせない。だが、調査の現場は常に時間とのせめぎ合いであり、理想どおりに予定を進めるのは難しい。特に、プリテストは比較的限られた日程の中で、適切な時期に迅速な対応をする必要があるので、曖昧な位置づけのままに行われがちである。NFRJ08 の実施にあたって調査票班では、プリテストを重要なものと位置づけて組織的に実施し、貴重な情報を得ることができた。

まず、実施に先立って調査票班でなされた議論の経緯について述べておこう。調査票の最終案がほぼ固まる時期が見通せた段階で、プリテストをどう実施すべきかについて、いくつかの提案が出された。一つは、調査票班メンバーに加えて他の実行委員メンバーにも希望を募り、知人や親族などに回答をしてもらい、その結果を集約するとい

う方法だった。もしもできるかぎり調査メンバーの多くがプリテストに参加をすることが望ましいとするなら（盛山，2004），この方式が適切だったかもしれない。調査主体が小規模でメンバーの活動地域が限られていれば，この方法も可能だったと思う。

だが，この方式は全国に広く散らばる委員のネットワークが調査主体であるNFRJ08という組織で行うには，やや実務上の難点があると予想された。会合スケジュールの調整が困難な多数の実行委員のメンバーにプリテストを割り振るためには，先立ってマニュアルをつくり，調査対象者の性別や年齢などが偏らないような配分調整をするなど事務作業の増加が避けられない。また，最大の難点はこの方式では実行と集約に一定の時間がかかることだ。さらに，出された意見には実務上の問題に加えて，身近なところでプリテストに協力してもらえそうな適当な人を探すのが困難である，という指摘もあった。

最終的に，調査票班の中で出された案のうちモニタリング方式が実行委員会で適切と判断され，調査モニターに会場へ足を運んでもらい，調査票への記入後，調査者がインタビューを行って結果を集約するという方式が採用された。この方式で予想された主な利点は，比較的短時間でプリテストが可能であること，委託と場所の集中により事務作業が効率化するなど，実務上の問題が解決できることだった。

2. 実施の方法および内容

調査の委託先選定にあたっては，本調査の契約が進行していたので窓口を一本化することが合理的という判断に至った。場所については地域性を考慮し，東京と大阪の2ヵ所で開催が計画された。モニターの選定にあたっては，職業や教育の程度に偏りがないように選ぶという条件で，20名のモニタリング対象者を，男女別に28歳から72歳まで10歳程度の年齢層に区切り，各2人ずつ割り当てた。地域別では東京14名，大阪6名とした。調査票は若年票，壮年票，高年票の3種

類を，原則として該当する年齢の方に回答を依頼した。内訳は，若年票7，壮年票5，高年票8である。また，家族構成でみると単身者4名で，他16名は家族と同居していた。単身者の年齢は20代から50代までとなっている。就業状態も会社員，自営業，パート・アルバイト，無職などさまざまである。結果として20名ではあるが多様な属性を含む人々からの回答を得ることができた。

会場では，学会からNFRJ08について簡単な説明をしたうえで，調査会社よりプリテストを行うにあたっての目的や留意点など実際の説明がなされたのち，調査票に記入をしてもらい，終わった人から個別にヒアリングをお願いした。ヒアリングの時間は30分程度を見込んでいたが回答者によっては，1時間程度に及ぶ場合もあった。

ヒアリングの内容については，あらかじめ調査票の作成担当者がそれぞれチェックしてもらいたい箇所を指摘し，それに加えて全体の感想として，回答しにくかった項目，理解できなかった項目，気になった点などを聞く半構造化方式のインタビューシートを作成した。筆者の感想としてチェック項目とは関係ない部分に話が及ぶ時間が多く，実用上はシートが少し使いにくい印象があった。つまり，調査をする側が気になっている点と調査をされる側が気になる点には大きなズレが感じられたのである。ヒアリングを担当したのはNFRJ08の委員がのべ5名，社会調査実習TAの経験がある大学院生（博士課程）1名である。それぞれのヒアリング担当者には，記録補佐のために大学生または大学院生が1人ずつ同席した。

3. 結果の集約と情報のフィードバック

モニタリング方式をとったため，ヒアリングを終えた担当者は個々の情報を現場で共有することが可能だった。明確に問題のある箇所は複数のヒアリング担当者が認識することができていた。また，同じ質問に対しても回答者の感じ方は千差万別であることも理解された。2回のヒアリングを終えたところで，記憶が鮮明なうちにヒアリング

担当者が直ちに情報交換できたことも有益であったように思う。その後、担当者がそれぞれインタビューシートに記入した結果を、プリテスト担当メンバーの1人が質問項目別に集約しなおした。集約表をもとに調査班全体で会合を開き出されたコメントへの対応について検討した。

修正すべき点が明確な問題については、フィードバックがしやすい。例えば、職業についての質問で選択肢の中に、契約社員という用語がなかったため、回答者がどこに○をつければよいのかわからなかった、という指摘がなされた。仕事の形態は近年変化が激しい項目の一つであるが、派遣社員という用語は入れられていたものの、契約社員や嘱託社員などの呼称を含めていなかったため、修正を加えた。また、回答してもらった反応から、重要度が低く正確な情報が得にくいと考えられた質問項目については、削除するという決定をすることもできた。作成段階でメンバーが予想していても、実際にそのような反応があると、改良へ向けての意思決定への根拠になる。

しかし、指摘がなされても対応をしにくい問題点も明らかになった。例えば、配偶者の労働や収入などについては「大体しかわからない」と指摘する人が複数いた。確かに、配偶者については情報がかなり共有されていることを調査側は期待しているので、夫婦の関係性によってはさほど知らない人がいてもしかたがない。逆に、配偶者との関係については、回答者自身の個人の意見を聞いているにもかかわらず、「夫の意見を聞いてみないと答えられない」という人もいる。つまり、そのような指摘があったとしても家族調査にとって中核的な質問をはずすことはできないし、改良の可能性がみえない項目もある。したがって、答えやすさや期待される質問への正確さだけでなく、むしろ調査の意図からみた重要性を考慮したうえで、対応に関する判断をせまられたことはいうまでもない。

調査票全体として、設問の順番や番号のつけかた、レイアウトについて、やや理解しにくいとい

う感想があり、調査票班メンバーもこの点についての認識が一致したため、調査票のデザインに関しても、できる限りの改善を試みるという決定に至った。

4. プリテストをふりかえって

プリテストを振り返って、理解できたことや今後へ向けて考えたことなどをまとめておきたい。筆者にとってヒアリングへの参加はたいへん有意義で、予想できなかった問題点にいくつも気づかされた。質問票の用語をとおした聞き取りという行為自体が、家族についてのクリティカルな論点が露わになる意識調査の現場そのものだったように思う。モニタリング方式は、確かに効率がよく短期間のうちに豊かな情報を得るのに適した方法であることも理解できた。場が集中していることで可能となった関係者の情報の共有が、結果集約の質を高めたことも間違いない。また、委員の周辺で調査をしていたなら、性別や年齢は調整できたとしても階層的なバイアスが生じていた可能性があるがそれを回避できた。さらに、直接知らない人にヒアリングができるモニターを対象としたことで、遠慮のない意見を多様な人々からもらえたという点でも優れている。

けれども、裏返せばこの豊かな情報を直接共有できた調査メンバーは5名と少ない。日程や場所が限定されているために参加しにくいだけではないのであるが、やや寂しい数字かもしれない。やはり地域や年齢、職業や家族構成などによる回答者の反応の違いは大きいので、時間や予算が許せばもう少し対象人数を増やすことができれば理想であった。また、今回は調査の予算規模等の制約もあり、調査票の質問項目にかなりの変更が伴うなど、プリテスト以後の改訂が大きくなってしまったことがやや気にかかる。

最後に、プリテストにご協力いただいたモニターの方々、手伝ってくださった学生のみなさんにお礼を申し上げたい。プリテスト実施の具体的な事例として、この小論を今後の社会調査に活かしてもらえれば幸いである。

【文 献】

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
(品田知美)

III. NFRJ08 の調査票上の工夫

1. 最終案決定までのプロセスと変更点

プリテストの結果をもとに, I で紹介された「NFRJ08 調査票原案」について, 実行委員会・幹事会と調査票班を中心に議論が重ねられ, 最終的な調査票が決定された。原案では, 平均 30 ページ前後となった分量の削減が最大の懸案となり, 再度の項目見直しが行われた。利用頻度が少なかった項目, 測定 of 正確性に問題がある項目 (回答しづらい, データチェックの際エラーが多い項目など), 回答該当者が少ない項目などについて, 削除ないし一部削減となった。主たるものとしては, 出身地域や (若年・壮年者の) 初職, 15 歳時点の父母の職業, 長子の出産前後の職業といった履歴項目, 介護に関する項目, 孫についての項目などである。

2. NFRJ08 の特徴 1: 3 種類の調査票

以下では, NFRJ08 調査票の最終案について, 調査項目および調査票の工夫を紹介していく。調査票は, 紙幅の都合で掲載できないため, 詳細は NFRJ の web を参照していただきたい。

幅広い年齢層を対象とする NFRJ では, どの年齢層も測定可能な項目 (「通ステージ的項目」) と, 特定のライフステージにおいてのみ経験されるようなイベントや行動に関する項目 (「特殊ステージ的項目」) がある。NFRJ98 では調査票が 1 種類であったが, NFRJ03 では 2 種類 (若年票と中高年票) に増やされた。複数調査票については, 保田 (2007) がこれまでの議論を整理し, 詳しく検討しているので参照されたい。実行委員会では, 調査票を何種類とするか, どの年齢で区切るのかについて最後まで議論となった。当初, 3 種類, 28~42 歳, 43~57 歳, 58~77 歳 (予算の都合上, 最高 72 歳) の区切りを予定していたが, サ

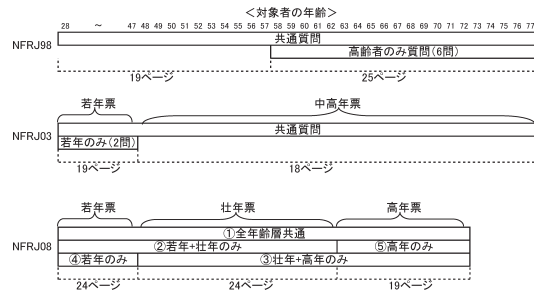


図 1 NFRJ の対象年齢と調査票の種類

ンプル数の偏りや, 対象者の子どもの年齢などを考慮して, 最終的に, 28~47 歳 (若年票), 48~62 歳 (壮年票), 63~72 歳 (高年票) という区分となった (NFRJ98, 03, 08 の調査票の種類と対象年齢の違いについては, 図 1 を参照)。

NFRJ98 では, 対象者の年齢によって質問数が異なる (57 歳までは問 31 まで回答, 58 歳以上は問 37 まで)。NFRJ03 は 2 種類だが, 若年票と中高年票の違いは, 子どもについての質問 (2 問) のみであった。NFRJ08 では, 該当する質問や, 質問は共通でも選択肢の数や内容が異なる場合など, 3 種類の調査票での差異が大きくなっており, ①すべてのステージに共通, ②若年と壮年のみ, ③壮年と高年のみ, ④若年のみ, ⑤高年のみに該当する質問という 5 種類に分類できる。若年票は, ①+②+④, 壮年票は①+②+③, 高年票は①+③+⑤という質問によって構成されている。NFRJ08 の具体的な質問内容と, 三つの調査票の異同, NFRJ98/03 との差違を整理し, 表 1 にまとめて示す。

3. NFRJ08 の特徴 2: NFRJ マトリックスの精緻化をめざして

NFRJ の調査デザインの特徴は, 「測定対象が個人であり, 個人にとっての家族をとらえようとしている点である。さらに重要であるのは, 配偶者, 父, 母, 子, きょうだい, 義理の父, 義理の母といった個人にとっての特定の親族的位置を保有する相手ごとに, 同一内容の質問項目によってその関係の内容が測定されている」(渡辺ほか,

NFRJ (全国家族調査) レポート 〈NFRJ の確立〉にむけて 3—調査項目の継承と新たな試み

表 1 NFRJ08 質問項目一覧

質問内容	項目の有無			若・壮・高年の違い	NFRJ 98, 03 との異同
	若年	壮年	高年		
あなた自身について					
性別	○	○	○		
生年月・年齢	○	○	○		
学歴・卒業時期	○	○	○	高年のみ学歴旧制併記	▲学歴 (選択肢修正) ■卒業時期
離家経験の有無・時期・きっかけ	○	○	×		■ (回答形式は変更あり) ◎きっかけ
あなたの職業について					
現職の就業状況・地位・職種・規模	○	○	○		
現職の労働日数・労働時間・通勤時間	○	○	×		
ワーク・ライフ・バランス (4 項目)	○	○	×		◎
初職について	×	×	○		■ (地位の選択肢追加)
年収	○	○	○		
結婚や配偶者のことについて					
配偶者の有無	○	○	○		
現在の結婚について					
結婚時期	○	○	○		
結婚後の仕事	○	○	×		
配偶者の生年月・年齢	○	○	○		
配偶者のきょうだいについて	○	○	○		◎
配偶者の結婚経歴	○	○	○		
配偶者の学歴	○	○	○	壮・高年は旧制併記	▲ (選択肢修正)
配偶者の就業状況・職種・規模	○	○	○		
配偶者の労働日数・労働時間・通勤時間	○	○	×		
配偶者の年収	○	○	○		
配偶者の健康状態	○	○	○		
配偶者との会話時間	○	○	○		◎
配偶者からの情緒的サポート (3 項目)	○	○	○		
家事頻度 (5 項目+2 項目)	○	○	○	若年のみ 2 問多い	
結婚生活への満足度 (4 項目)	○	○	○	高年のみ 1 問内容異なる	
家族認知	○	○	○		■
本人の結婚経歴	○	○	○		▲ (質問文の選択肢順序変更)
初婚の時期	○	○	○		■
結婚希望	○	○	○		
交際相手の有無	○	×	×		◎
あなたの考え方・意見について					
家族意識 (9 項目)	○	○	○		▲ (新規 2 問入れ替えあり)
CES-D	○	○	○		
悩み・負担感 (3 項目)	○	○	○		▲ (項目数減)

本人の健康状態	○	○	○		
生活満足度	○	○	○		
子どもについて					
人数	○	○	○		▲（健在のみ→死亡子も含む）
性別・出生年・同居の有無	○	○	○		■（健在 6 人，死亡 2 人について）
健在子のうち年長 3 人について					
職業の有無	×	○	○		
居住	×	○	○		▲（選択肢変更・追加）
学歴	○	○	○		▲（選択肢修正）
子ども（本人の孫）の有無	×	○	○		◎
遊び・教える・夕食	○	×	×		
会話	×	○	○		
金銭・相談・ケアの受領/提供	×	○	○		▲（非経済→相談とケアに分割）
良好度	○	○	○		
家族認知	○	○	○		■
子どもの配偶者の家族認知	×	○	○		◎
養育態度（6 項目）	○	×	×		▲（項目数減）
長子の出産時の就業状態	○	○	×		▲（質問文の選択肢変更）
（追加）出生意欲	○	×	×		
あなたの両親のことについて					
出生年・年齢・学歴・健在	○	○	○		▲学歴（選択肢修正・追加）
健在の父・母について					
職業の有無	○	○	×		
居住	○	○	○		▲（選択肢変更・追加）
会話	○	○	○		
金銭の受領	○	○	×		
相談/ケアの受領	○	○	×		▲（非経済→相談とケアに分割）
金銭の提供	○	○	○		
相談の提供	○	○	○		▲（上記に同じ）
ケアの提供	○	○	×		▲（上記に同じ）
面会	○	○	×		◎
良好度	○	○	×		
家族認知	○	○	×		■
あなたのきょうだいについて					
健在・死亡別の人数	○	○	○		
健在のきょうだいについて					
性別・出生年月	○	○	○		
居住	○	○	○		▲（選択肢変更・追加）
学歴	○	○	○		▲（選択肢修正）
会話	○	○	○		

NFRJ (全国家族調査) レポート 〈NFRJ の確立〉にむけて 3—調査項目の継承と新たな試み

金銭・相談・ケアの受領	○	○	○		▲ (非経済→相談とケアに分割)
金銭・相談・ケアの提供	○	○	○		▲ (非経済→相談とケアに分割)
家族認知	○	○	○		■
きょうだいの配偶者の家族認知	○	○	○		◎
あなたの配偶者の両親について					
出生年・健在	○	○	×		
健在の義父母について					
職業の有無	○	○	×		
居住	○	○	×		▲ (選択肢変更・追加)
会話	○	○	×		
金銭・相談・ケアの受領	○	○	×		▲ (非経済→相談とケアに分割)
金銭・相談・ケアの提供	○	○	×		▲ (非経済→相談とケアに分割)
面会	○	○	×		◎
良好度	○	○	×		
家族認知	○	○	×		■
あなたの親族や周囲の方との関係について					
サポートネットワーク	○	○	○	高年のみ質問が1問多い	▲ (選択肢配列変更)
世帯年収	○	○	○		
あなたと一緒に住んでいる方について					
住居	○	○	○		
同居人数	○	○	○		
同居者の続き柄	○	○	○	高年のみ選択肢数少ない	■
世帯主	○	○	○		

【備考】

▲ NFRJ03 から変更がある項目

■ NFRJ98 の復活項目

◎ NFRJ08 からの新規項目

() 内は変更点

2004) ことにあり、NFRJ マトリックスと呼ばれてきた。これらのデザインは、NFRJ08 でも基本的には踏襲・維持されているものの、今回は NFRJ マトリックスの完成が目指された。一方、近年の社会調査をとりまく状況の厳しさは周知のとおりであり、プリテストで聞かれた意見からも、対象者の協力・理解を得るためには、ページ数の削減とともに、「好印象」となる調査票とすることが重要であった。

NFRJ98/03 では、関係ごとに同一内容の質問を原則としていたが、NFRJ08 では関係距離と調

査票の種類によって、質問数が異なる。NFRJ03 からの大きな変更点としては、義父母についての質問は若年票と壮年票のみとなり、父母についても、高年では、若年・壮年票の一部のみとなっていることがあげられる。また、夫妻の姓や実子か否か、父母の婚姻関係など、対象者との親族・血縁関係を厳密に特定できる質問も、最終案の段階で削除された。一方、新たに夫妻の会話や親との面会など、「近い」関係の相互作用や個人に關係の態様を評価させる質問が増えている。

また、調査票内の順序も、個人からみて「近い」

関係から「遠い」関係へという配置で全体が一貫するよう配慮した。具体的には、質問の順序について、世帯に関する質問を最後に移動し、既存のサポートネットワークや世帯員の続柄などの選択肢の順序を見直し、血族→姻族→その他という順に並び替えている。また、マトリックス内の質問の順序も、たとえば教育歴の位置など、位座ごとに異なっていたものを、NFRJ08では、共通する質問は統一している。

4. NFRJ08の特徴3: デザインなどでの工夫

調査票のビジュアル面でも、プリテストでの意見を踏まえ、調査票班でもいくつかのデザインサンプルを作成して、調査票全体にわたり、わかりやすい・回答しやすいように改善を行った。とくに高年者からの意見に対応して、細かい修正を加えている。具体的には、行間を広く、セクション区切りもわかりやすいものにする。()や…などの表記を減らす。セクションやとび先といった指示文や○をつける選択肢はゴシック、質問文は明朝というフォントと濃淡の使い分け、点線や矢印などによる誘導を増やすといった変更である。

また、NFRJの多くの質問は、1問ごとに尋ねるのではなく、表形式となっている。これは、スペースの省略や、選択肢を読む手間が省けるなどのメリットがあるが、一つの質問に複数の○がつく、一問飛ばされるなど、無回答になるデメリッ

トがある。NFRJ08では、表頭の選択肢、そして連続する質問については1行おきに濃淡をつけた。さらに、位座別のマトリックスは、従来、表側に設問、表頭に位座ごとに設定された対象が1人ずつ配置された一覧表の形式であった。しかし、この形式では、質問文が長い場合、改行が多く読みづらいこと、また該当回答数の人数に応じて、列幅がせまく圧迫感があった。そのため、前出の表1のようなスタイル、すなわち質問文が行全体にわたり、回答者は各質問を読み、該当者別の選択肢に○をつける形式を採用している。

デザイン面での修正も含め、3回目のNFRJ08で、NFRJマトリックスおよび調査票のひな形として一定の水準に到達したのではないだろうか。今回の改善が、対象者にどのような影響を及ぼすのか、とりわけ回収率や回答率として現れてくるのか、直接的には検証できないが、実査や分析を通して、今後もさらに改善を重ねていくことが課題となる。

【文 献】

渡辺秀樹, 稲葉昭英, 嶋崎尚子編, 2004, 『現代家族の構造と変容—全国家族調査[NFRJ98]による計量分析—』東京大学出版会。

保田時男, 2007, 「NFRJ08における複数調査票の作り方」『家族社会学研究』19(2): 106-112.

(田中慶子)